

実施団体名【 久留米市教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域  
第1学年 ( 言語 )

(2) 単元名または活動名  
「かん字のはなし」

(3) 対象児童の実態 ( 1人 )

	第1学年 国籍 (フィリピン) 母語 (タガログ語) 在籍年数 (9ヶ月)
A          児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の力 日常会話はよくでき、支障をきたすことはない。 簡単なあいさつもでき、授業中も、具体的な指示に従って、行動することができる。 平仮名は、ほとんど読み書きできるようになってきた。 漢字や片仮名もだいぶ覚えてきた。 また、伝えたい内容を適切に書いたり、話の内容を考えながら読み、登場人物の気持ちを読み取ることや、簡単な組み立てを考えて書くことも、少しずつ上達している。</li> <li>・在籍学級での学習参加の様子 1学期は、クラスに慣れるため、TTとして入り込んでいたが、2学期からは週5時間取り出し、主に国語学習をしている。 授業に対して積極的に参加し、進んで発言することが多い。</li> <li>・学習環境 フィリピンで生まれ、3~4年才頃に何度か日本とフィリピンを行き来している。日本の保育園に年長組の時1年間通い、友達関係もできていたため、学校生活にスムーズに入ることができた。</li> </ul>

(4) 目標

◇【教科指導の目標】

- 漢字の成り立ちに興味を持ち、漢字を正しく読んだり書いたりする。
- 漢字は、形や様子からできていることがわかる。

◆【日本語指導の目標】

- 漢字がどのようにしてできたか興味を持ち、漢字を正しく読んだり書いたりする。
- 仲間分けをしたり、カードを正しく合わせたりすることができる。

2 学習活動

指導者 日本語指導担当者			
全体の時間数 (5時間)			
学習活動の内容, 指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
<p>①漢字の成り立ちについて, 「ものの形」→「絵」→「象形文字」→「漢字」と変遷してきたことを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平仮名, 片仮名, 漢字を仲間分けする。</li> <li>・絵カードと漢字カードを合わせる。</li> <li>・漢字練習をする。</li> </ul>	取り出し	<p>○仲間分けの意味をしっかりと理解させる。</p> <p>○漢字名人を使わせて, 漢字を書くことの抵抗感を少なくする。</p>	<p>◇今まで習った平仮名や片仮名の特徴を思い出させて, 仲間分けさせる。</p> <p>◆漢字カードに合う絵カードを自分で貼らせ, 意欲的に取り組ませる。</p> <p>◇字の形に着目させて, 絵カードを選んだ理由を言えるように支援する。</p> <p>◆へんしんボックスを使って, 絵を表す漢字が出るようにして, 興味も持たせる。</p>
<p>②様子から漢字ができたことを理解させる。</p>	取り出し	<p>○「様子」の意味を, 体を使って考えさせる。</p>	<p>◇上, 下などは, 形ではなく, 様子であるということを説明する。</p> <p>◆前時で使ったへんしんボックスを活用する。</p>
<p>③山などの漢字を正しい書き順で書く練習をさせる。</p>	取り出し	<p>○姿勢を正しくして書くよう指導する。</p>	<p>◇第1時で学習したことを思い出させる。</p> <p>◆絵や写真を活用する。</p> <p>◆「かんじ名人」やなぞり書きができるようなプリントを用意する。</p>
<p>④上などの漢字を正しい書き順で書く練習をさせる。</p>	取り出し	<p>○「かんじ名人」やなぞり書きができるようなプリントを用意する。</p>	<p>◇第2時で学習したことを思い出させる。</p> <p>◆図を活用する。</p> <p>◇平仮名だけの文と, 漢字が混ざった文を比較させて考えさせる。</p>
<p>⑤漢字を使った文は, 読みやすいことを理解し, 短い文を書く練習をさせる。</p>	取り出し	<p>○短文の例を用意して, 文を書きやすくする。</p>	<p>◆絵を見せることで, 文が書きやすくなるよう工夫する。</p> <p>◇音が同じでも, その意味を考えなければいけないことに気づかせる。</p>

### 3 成果

#### ①対象児童に対する成果

『つかむ段階』では、平仮名、片仮名、漢字のカードの仲間分けが難しかったようである。しかし、最後まであきらめずに分類することができた。

『しらべる段階』では、絵カードと漢字カードを合わせることは、自力でできた。それをへんしんボックスで確かめたが、どんな漢字が出てくるか、興味を持って取り組むことができた。

『たしかめる段階』で、実際に漢字を書く活動をした。「漢字名人」で書くことが気に入って、いくつもの漢字を積極的に書くことができた。

#### ②その他

漢字に興味を持ち始め、自分の名前を漢字で書いたり、習っていない漢字の読み方を担任に質問したりする態度が見られるようになってきた。

書き順も意識をするようになり、筆圧も出て、しっかりした字を書くようになってきた。

### 4 課題

○漢字の成りたちについて、実際の形を写真で確認させ、それが絵に表されたところを提示するという手だてをとったが、実物→絵→象形文字→漢字という流れをしっかりと伝える必要がある。外国人児童の場合、日本語の言葉を聞いて浮かぶイメージが日本人の児童のもつイメージと違うことがある。「絵」を見て実物をイメージできるとは限らないため、「ものの形」として補足説明をする方がわかりやすいと考える。

○仲間分けをする段階で、発問があいまいであった。

しかし、仲間分けという操作は、他の学習でも生かされるので、大事な学習であったと考えられる。

○絵カードがへんしんボックスから漢字カードとなって出てきた時、反応が薄かったのは、カードが横になって出てきたため、A児にとってわかりにくかったからだと思われる。どう出ればわかりやすいのか、事前に念入りに考えておくべきであった。

○絵を見て、学習した漢字を使って文を書くという活動は、子どもにとって、難しかったと思われる。例文を提示したり、まず絵のところに習った漢字を書かせたりして、書きやすくする手だてが必要だった。

### 教材・教具



『へんしん  
ボックス』  
ブラックボックス  
になっている。

絵カードを入れる  
と、漢字カードが  
出てくるようにな  
っている。

『漢字名人』  
厚紙を切り抜いて  
作ったもの。

切り抜きに沿って  
書けばいいので、  
形を取りやすいと  
いう利点がある。